

Green Mobility

グリーン・モビリティ

自転車生活と人と地球の応援マガジン

Vol.14

ご自由にお持ち下さい

www.green-mobility.jp

ヨーロッパ最南端都市の改革
スペインセビリア

ツアー・オブ・ジャパンの真の価値とは
ロングテールバイクは笑顔製造マシン

自転車だけで痩せなかった人たちへ
王国の中の王国～台湾・高雄～
新連載・熟年世代の自転車術

改革は、2007年から始まった

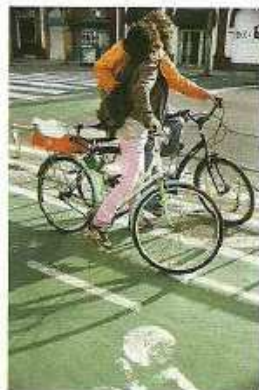
現在の旧市街地内は、つい数年前までの姿が想像できないほど自動車立ち入り禁止区域が増え、自転車専用道が整備されている。このような状況になり始めたのは、2007年7月下旬からである。この時、何が起ったのか。それは、Carrilho（カリル・ピーシ）と呼ばれる自転車専用道がセビリア市内に張り巡らされることになり、それに追行してセビリア市政府とフランスの会社



現在も拡張工事が続くカリル・ピーシ

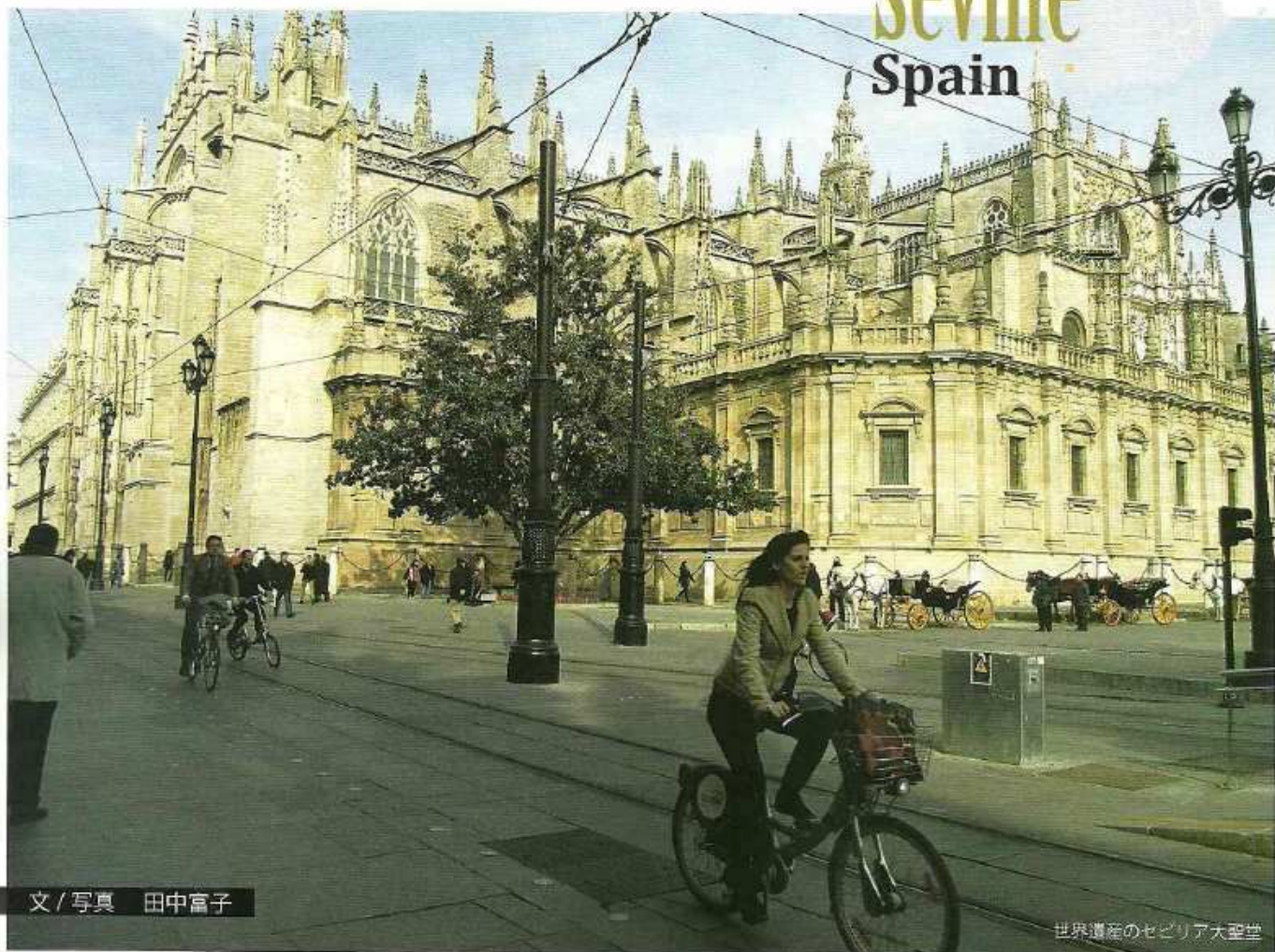
スペインはアンダルシア州の州都セビリア。70万人の人口を抱える、スペインで4番目に大きなこの都市の旧市街地は、約335ヘクタールの面積を擁す。ここにはユネスコの世界遺産にも指定されている大聖堂、アルカサル（王宮）、インディアナス古文書館が並び、観光客で一年中賑わっている。またアラブ人に約800年間統制されていたという土地は現在でもその色が強く残り、エキゾチックな空気は夜になると特別な雰囲気を出し出す。スペイン一街の外観が美しいといわれているセビリアの魅力は何といっても、歴史ある調和のとれた建物が立ち並ぶこの旧市街地と、グアダルキビル川に尽きる。

この長い歴史に彩られた街が2007年を境に、ある変化を見せている。先ごろ同じスペインのマドリッドとバルセロナの大気汚染がEUの定める危険値に入ったというニュースが世界中に報じられたが、セビリアにおいては逆に、以降きれいな空気を取り戻し始めたのだという。延いてはその証となる、「VELO-CITY2011」のホスト国に任命されるに至った。セビリア市議会はその公式HP上でこう語っている。「私たちが2007年から積み上げてきた実績は、セビリアを他の環境先進都市と肩を並べるに値する都市とし、市民の生活にも幸福をもたらしている。このヨーロッパ最南端の都市が、いかに地球温暖化防止のために戦ってきたのかを、皆さんに是非で観いただきたい」。



ヨーロッパ最南端都市の改革 スペイン・セビリア

Seville Spain



文 / 写真 田中富子

世界遺産のセビリア大聖堂

ICDARIX が提携をし、8555 (セビーシ) という公共サイクリングシステムが始められたこと。このカ ril・ピーシについては、市民の意思が大きく影響したという。現在のセビリア市政府は、ROSE (社会労働党) が IZQUIERDA UNIDA (統一左翼。以下IU) と一緒に主政権を取っている。当時、多数の市民がIUに 対し自転車専用道建設を強く要望し ており、それを市民グループや組織 が参加する予算会議に通したこ ろ、他の案件よりも絶対的に賛成投 票数が多かったそうだ。

今では全長140 kmにまで及ぶ カリル・ピーシだが、このプロジェ クトに最初から携わっている政府担 当者はこの自転車専用道路の建設に 関して、「自転車は乗り物としての 機能を果たすためには、独自のスペー スを作る必要がある。それを作らな かったら、発達はあり得ない。これ により市民に安心感を与え、初めて 自転車が現実的で有効的な乗り物と なり、服装やエネルギー節約に貢献

することにも繋がる。確かに、最初 は不安材料もあった。それは自転車 に対する「見方」だ。自転車なんて 過去のものだと思っている人たちが 多かったのも事実だし、工事開始直 後は市民から騒音等のクレームを受 けた時期もあった。また、建設を進 めるために駐車している車を除去し なければならぬこともあり、市民 グループの反対にもあった。ところがセビーシの運営が始まってみると 自転車に対する見方は徐々に変わ り、カリル・ピーシ建設地区の選定 をじっくり行うことにより、クレーム も少なくなっていく。数年経つ た今は、市民の自転車に対する考え 方は大きく変化した。もともとカリル・ ピーシを増やしてほしいという声さ え出始めた。少しずつ広えていこう と思う」と、コメント。市民に認め られるかたちとなり、嬉しさが隠せ ないようだ。



後ろの建物はグアダルキビル川のシンボル、13世紀のアラブ時代に建設された「黄金の塔」



市民にも観光客にも便利な、セビシのシステム

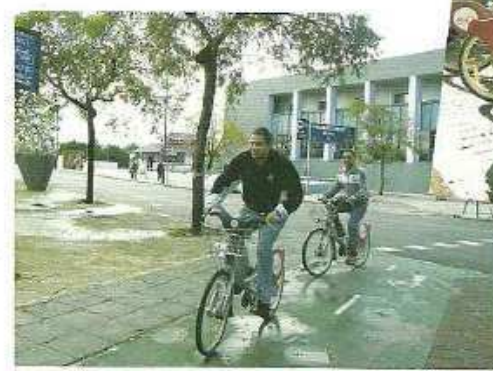
現在、1日平均の使用は2万5千台でこれは同じ公共サイクルングシェアシステムを採用する他の63都市の中でトップの利用率である。ステーションは市内に約250箇所

約300メートルの間隔で置かれている。自転車の数は2千500台で、もちろん24時間使用可能だ。先日の発表によると2013年までに自転車数2千900台、設置ステーション数は290までに強化される予定だという。その他、カスタマーサービス・オフィスの旧市街地内への設置、コールセンターの受付時間延長など、今後カスタマーケアにも力を入れていく方針だ。

また同時に、増加する事故への対応も進めている。ICDcaixaは、年間数ユーロで事故の補償を行うシ

ステムを検討中だ。利用者や歩行者にとつては、より安心できる未来も見えているのである。

セビシには、2つのタイプがある。1つは、7日間限定のショート利用。もう1つは1年間のロング利用である。ショート利用の基本料金は10ユーロで、デポジットとして150ユーロ。ステーションの画面で、クレジットカードにて全て決済が可能だ。言語は西語の他、英語、仏語、独語にも対応しており、観光者にとつても便利なシステムとなっている。ロング利用の基本料は25ユーロで、デポジットは2011年から不要になった。登録および決済は、ウエブ（西語と英語）上で行う。またいずれも、最初の30分間の使用は無料。その後1時間はショートの



場合で1ユーロ、ロングで0.5ユーロ。2時間目以降はショートで2ユーロ、ロングで1ユーロの延長料金（1時間あたり）がかかる。

現在、ロング利用に契約している人の数は5万373人。筆者自身もその1人である。個人的意見を言えば、故障を気にしなくてもいいし基本的に便利なシステムだが、旧市街地内のセビシ使用はなるべく避けたいと思う。タイヤが重いこともあって石畳の道は操縦しにくく、道路が狭いため車や歩行者との接触が簡単に起こるのである。

セビリア人の通勤の足に

セビシの開始から3年弱が経過するが、開始当初からの利用者の増加率は実に、約500%。また昨年3月の調べによると、67%のセビシ利用者が「他の交通手段よりも自転車を好む」と答えているように利用者の30%が車からの乗り換え組であるという。自転車利用率と共に、自転車に対する好感度も格段に高まっているのである。利用率が高い時間帯はほぼ、セビリア人の通勤時間にあたるため、セビシは公共交通機関として主に利用されているようだ。

このセビシ開始の影響から、2006年に6千台だった1日の自転車使用台数が、2010年には6万台に増えている。約6.6%の移動は自転車にて行われているという計算になるから驚きた。

2007年にセビシについて調査したことがあるが、その時、街に出てセビシを利用している1人に出会うために要した時間は、30分から1時間だった。現在は、外に出れば3秒としないうちに複数の利用者に会うことが出来る。利用者が急増していることは、筆者自身が実感していることでもある。



Seville
Spain

このように年々自転車の利用率が増えていく中、同時にセビリア政府は昨年9月より、旧市街地への一般自動車の進入をコントロールし始めた。旧市街地の自動車道入り口と出口で20台のカメラにより監視し、月曜日から土曜日の朝8時から夜10時の間、滞在可能時間を45分間に制限しているのだ。制限時間をオーバーした場合は70ユーロ（約7千700円）の罰金が科せられる。ただし旧市街地内の地下駐車場に駐車した場合は、駐車場に入る時間から出るまでの時間はカウントされない。また引越し時や業務用荷物の上げ下ろし時などは、申請すれば特別許可書が発行される可能性もあるという。もちろん旧市街地内に居住し、車を所有している人たちに限っては免除となる。その他、ゴミ収集車、タクシー、救急車、消防車、バス等の公共サービス車、電気自動車、モペッド、駐車場のみ持っている場合や、移動が難しい障害者を持っている場合も同様である。

調査によると、旧市街地内には1千200台以上の駐車場のスペースがあるが、現在のその利用率は50%に届いていないそうだ。この自動車追放政策は当初、旧市街地内の商店から売り上げに影響するということで反対が叫ばれていたが、駐車場に車を入れること

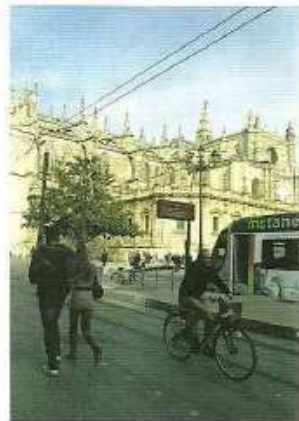
で時間をカウントされないのであれば問題にはならないということになった。しかしながら無料路駐に慣れているスペイン人はよほどの理由がない限り、わざわざ駐車料がかかる旧市街地まで買い物に行くことはない。郊外の大型ショッピングモールで済ますケースが多くなるのではないだろうか。

この規則により、1日約10万台の一般車進入が防げると聞いた。しかし、筆者は旧市街地内に居住しているが相変わらず道路は駐車している車で占領されており、本当に減っているのか疑問である。スペインでは車庫証明がなくても車を購入することが出来、また地下駐車場を完備している建物も少ないため、居住者が路上駐車している場合が多い。もう一歩、進んだ政策が今後必要になるだろう。



①セビリアのシンボル「ヒラルダの塔」は、セビリアの自転車人気にももちろん賛成であろう。②旧市街地出口に設置されているカメラ。③自動車45分のみ滞在可の看板を見落とす人も多いとか。

セビリアの公共交通機関の現状



路面電車や地下鉄等公共交通機関を充実させることにより、車利用を回避させる方向に政府は動いている。現在の路面電車は、旧市街地中心部から旧市街地外東部にあるバスターミナルまでのたった3駅間の運行である。現在、さらに東部に位置する新幹線や在来線が通っている鉄道駅までの延長工事が進められている。地下鉄に関しては、計画では4ラインを予定しているが、現在1ラインのみの運行で、セビリア郊外南西部からセビリア旧市街地を通り、南部の DOÑA HERANZAS（ドス・エルマナス）市までの22駅、全長18kmを約40分間で結んでいる。ただし、このところの不景気により公共投資が大幅カットされていることもあり、予定よりも拡張工事は進んでいないが、大多数の市民は時間が確実に読める公共交通機関建設に賛成している。特に、スーツケースや大きな荷物を持ち駅や空港に行く場合、現在の公共交通機関だとバスに乗るしかない。バスは、時間を読むことができないので、路面電車や地下鉄が駅と空港まで延長されれば、確実にそのような問題は解決されるはずだ。



VELO-CITY 2011の 舞台へ

Seville
Spain



急速な自転車利用増加により、都市における自転車の有効性^①と、自転車専用道路拡張により、インフラ整備普及^②を証明したことで、セビリアが「VELO-CITY 2011」の場として選出された。これによってセビリアは持続可能な都市のお手本となり、短期間で自転車を市民に植えたモデルとして、世界にそのキャパシティーを示すことになった。

この一環で「Ciclovida（シクロビダ）」とネーミングされたイベントが現在、セビリアの旧市街地で毎月行われている。これは「VELO-CITY 2011」におけるテーマの1つ「自転車と健康」とリンクしている。セビリアの旧市街外周の一部を午前9時から午後2時まで自動車通行禁止とし、市民に開放するというもので、1月16日に行われた第三回目は晴天の中、多くの人々で賑わった。実際に参加している人たちは、子供連れやカップルが大半。参加は自由で、好きな場所に陣取り好きなことが出来る。当日は、小さな子供たちの体操クラブやダンス、ローラースケートなどで盛り上がっていた。もちろん参



加者の大半は自転車でこの場に到着しており、セビリアの自転車熱を改めて実感出来た。
主催者に話を聞くと、筆者が到着する前に、あるコップラディアのパソがうるうるしていたそうだ。コップラディアのパソとは、イースターの際にセビリアの市内を闊歩する教会が持つお神輿のこと。キリスト像が飾ってあるパソ（お神輿）が1つ、マリア像のものが1つ。約500㎏とも言われるこのパソを動かすのは人間だ。さすがセビリア、こんな時でも伝統は忘れない。ちなみに、3月の「VELO-CITY 2011」開催までに計5回、このイベントが開催される予定だ。



①セビリア郊外に住んでいる親子連れ。カリル・ベーン建設後、安心して子供を自転車に乗せることが出来るようになったそうだ。②Ciclovidaイベントの入り口。③Ciclovidaの主催長 Antonio Rodrigo Torrijo（アントニオ・ロドリゴ・トリーホ）氏が参加者に質問するシーンも。④普段車で混雑している道路がこの日は自転車で混雑。



セビリアを盛り上げる「VELO-CITY」とは



ブリュッセルに本拠があるヨーロッパ・サイクル連盟は、毎年ホスト国(都市)を選び都市部での有効な自転車利用

環境作りを具体的にサポートするために、世界中から関連部門の専門家や政策担当者、企業や大学など広く識者を招いて国際自転車会議を開催している。セビリアは、UNHABITAT(国連人間居住計画)が、持続可能な社会環境作りに成功している都市などに与える「Best Practice(ベスト・プラクティス)」という賞を受賞したことにより、「VELO-CITY 2011」のホスト都市として選出された。VELO-CITY 2011は、「The Cycle of Life(自転車は都市生活者にとって欠かせないものであり、すべての人を健康にするという意味)」というテーマのもと、3月23日から25日の3日間、世界各地から千名以上の関係者を集めて行われる。

このイベントでは、都市、公共、健康、教育、経済、雇用、公共投資に関する5つのテーマの会議、27か国から120のプレゼンテーション、ディスプレイなどが行われる予定。またEXPO(エキスポ)と題し、自転車関係の製品やサービスを提供する会社の展示会も同時に開かれる。大規模な国際イベントが行われるということで、関係者及びセビリア市民は今、大いに盛り上がりつつある。

自転車業の急普及と、フォールディングバイク人気



最近、セビリアでは自転車店が急速に増えている。市に登録している自転車販売業は、現在27店。フランチャイズの増加も加速している。カ ril・ビーチとセビリアが始まった2007年のある自転車店の売り上げは、前年より25%上昇したという報告もあるほどだ。また、レンタル自転車店も急増しており、現在5店存在する。店によっては、宿泊先まで自転車を届けてくれるサービスもあり、また市内をレンタル自転車で回るツアーもある。

そんな中、フォールディングバイクのみを扱っている店がある。35モデル揃えているこの店の名前は「Plegada(フレガビシ) / プレガブレ(折り畳みできる)」とビシクレタ(自転車)の造語。2007年にオープンしてから、フォールディングバイクしか取り扱っていないそうだ。その理由



はどうか、この市の建物構造と治安状況にあるらしい。セビリアでは他のスペインの都市同様、アパートに居住している人々が圧倒的に多いのだが、構造が古いアパートは共同駐輪スペースを持っていないことも多い。またエレベーターがない建物もたくさんある。自転車だけでなく、外に物を置いておくときれいやすい状況なのだ。持ち運びに便利でフォールディングバイクを購入したいという人たちが多いのは頷ける。

オーナーの「ジョセ(ヘスス)」氏によると、一番売れているのは300ユーロから350ユーロのもので、重さでいえば9・5kgから14kgくらいのもの。クオリティと値段のバランスが合っている自転車を購入していく客が多いそうだ。大型店舗で自転車を購入した場合、価格は大分安くなるが、故障や部品調達の際のケアがなく、部品自体が存在しないこともある。しかし、この店で購入した自転車は全て2年保障(フレームのみ)。さらに購入から約3か月後に行う検査とその修理は、無料で行われる。自転車によく馴染み始めたばかりのセビリアのサイクリストにとっては、安心が大きな力ぎを握るのである。



自転車でもセビリアを周ろう！

セビリアには世界遺産以外にも、アート、公園、そして食と、魅力が満載だ。これらは自転車で、簡単に周ることができる。広い公園では、ランニング、サッカー、テニス、ローリースケートをやっている人たちも多く、晴れた週末にはたくさんの家族連れで賑わう。サイクリングに最適なものは、旧市街地を囲む大通りのそばを走るグアダルキビル川沿い。この川はセビリア市民にとつての憩いの場であり、最近では子供たちが遊ぶための遊戯スペース、日向ぼっこ用の芝生スペース、市民のための図書館、ローリースケート場、サッカー場などの設備も有している。そして、自転車で公園や美術館、植物公園訪問を楽しんだ後は、アンダルシアの美味しい料理に舌鼓というのはいかが？

JARDIN AMERICANO

アメリカ公園

旧市街地から、PASARELA DE LA CARTUJA (パサレラ・デ・ラ・カルトゥーハ) と呼ばれるグアダルキビル川を通る橋を渡るとすぐ。この辺りは、1992年国際博覧会の会場の一部であったが、最近の土地再開発計画によって2010年4月に公園としてオープン。植物公園としての美しさはもちろん、自転車での入場も可能なことが素晴らしい。2ヘクタールのスペース内には350種のアメリカ大陸植物が育てられており、10種類のベカン、セドロ等の珍しい植物も見ることができる。公園のそばには河川通路と呼ばれる、川の中に浮いている自転車が通れる400mの通路が、ここを自転車で通ると、川の水面を渡っているような気がして気持ちが良い。

住所：C/Camino de los Descubrimientos, s/n, Isla de la Cartuja
セビシ・ステーション：PASARELA DE LA CARTUJA を渡って左手



PARQUE DEL ARAMILLO

アラミージョ公園

グアダルキビル川沿いの遊歩道を北に行き、PUENTE DE ARAMILLO (アラミージョ橋) を渡ってすぐ。47ヘクタールある広い敷地内には2つの池があり、たくさんの植物や鳥類、小さな哺乳類が生息している。毎週末は、たくさんの家族連れが訪れ、ピクニックや、サイクリングなどで楽しんでいる。スポーツ、動物、自然、芸術等幅広いジャンルのイベントも開催されている。

住所：Cortijo del Alamillo, Isla de la Cartuja
<http://www.parquedelaramillo.org/>
セビシ・ステーション：Estadio Olímpico (オリンピックスタジアム) そば



MUSEO DE BELLAS ARTES DE SEVILLA

セビリア美術館

旧市街地内、EL CORTE INGLÉS (エル・コルテ・イングレス) と呼ばれるデパートの近く。画家ムリーニョを始めとする、セビリア出身のアーティストたちの作品が集まる。修道院の一部が美術館となっているため、建築物としても興味深い。ちなみに毎週日曜日の午前中は、芸術マーケットが美術館前の広場にて開催される。

住所：Plaza del museo, 9
<http://www.juntadeandalucia.es/cultura/museos/MBASE/>
月曜休み
セビシ・ステーション：Plaza del museo 内



セビリアの自転車人



Andreas Werner

ドイツ人 建築家 セビリア在住 11年自転車歴 10年
「カレル・ビーシとセビシが始まってから自転車が大人気になった。もっと自転車に乗る人たちが増えればいいと思うよ。ドイツはもっと前から自転車に対してポジティブだったけど、セビリアもポジティブ層が大幅増えたようだね」



CENTRO ANDALUZ DE ARTE CONTEMPORÁNEO

アンダルシア現代美術館

アメリカ公園近く。元 Monasterio de la Cartuja (カルトゥーハ修道院)。1964年に国定記念物に指定されている。不思議な形をした煙突が印象的だが、これは以前陶器工場でもあったから。現在は5つの煙突が残っている。コロンブスが新大陸発見の際、旅の準備のために一時滞在していたそうだ。修道院内は、スペインを中心としたモダンアートに溢れ、外観とのギャップが興味深い。

住所：Avda. Américo Vespucio, 2
<http://www.caaces/>
月曜休み
セビシ・ステーション：PASARELA DE LA CARTUJA を渡って左手

Seville Spain

La Mandrágora

ラ・マンドラゴラ

旧市街地の端に位置する、木、金、土の週3日しか開いていないレストラン。オーナーはぶどう醸造家で、手のこったベジタリアン料理が楽しめる。ベジタリアンにお勧め。

住所：C/Albuera, 11

セビージャ・ステーション：Estación de autobuses Plaza de Armas (プラサ・デ・アルマス・バス・ステーション) 前もしくは、Puente de Isabel II を渡る手前



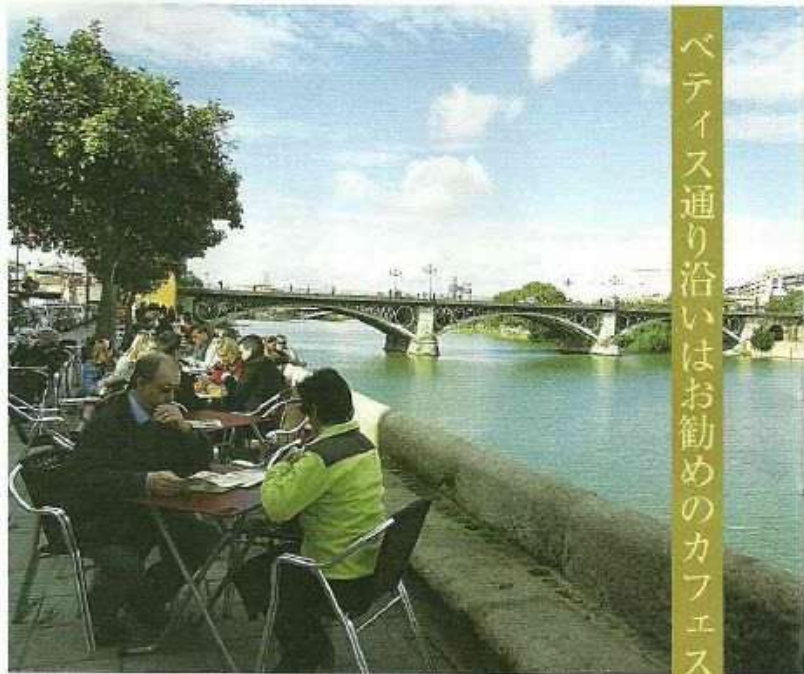
La Madraza

ラ・マドゥラサ

アーティストチックなセビリア人がたくさん住んでいる、Alameda de Hércules (アラメダ・デ・エルケレス/通称アラメダ) のそばにあるレストラン。ランチ時は比較的空いているが、夜はオープンと同時に席が埋まるので注意。大き目のタバスで、地中海料理が楽しめる。

住所：C/Peris Mencheta, 21

セビージャ・ステーション：Alameda de Hércules 半ば



ベティス通り沿いはお勧めのカフェスペース

旧市街地から Puente de Isabel II (プエンテ・デ・イサベル・セグンド/通称トゥリアナ橋) を渡ると、左手がベティス通り。晴れた日は、グアダルキビル川沿いにたくさんのテーブルが並び、食事やお茶が楽しめる。トゥリアナ橋は19世紀に出来た橋で、旧市街地を引向うに見る景色は素晴らしい、夜は橋にスポットライトが当たり、デートにも最適。

住所：C/Béts

セビージャ・ステーション：Puente de Isabel II を渡って右手

Café-Bar de arte

カフェ・パール・デ・アルテ

Alameda de Hércules (アラメダ・デ・エルケレス/通称アラメダ) のそばにあるカフェバー。1年半前のオープン時から店内に駐輪スペースが用意されていたことから分かるように、オーナーはセビリアの自転車ムーブメントに大賛成。カルチャープログラムも用意されており、実に興味深い。

住所：C/Calatrava, 12

セビージャ・ステーション：Alameda de Hércules の終わり (旧市街地より)



田中富子 Tomiko Tanaka

スペイン、セビリアに2001年より在住。食品仲介業経営。2008年ハエン大学にてバージン・エキストラ・オリーブオイルにおけるエキスパート・テイスター称号獲得。減食、情熱、感動をモットーに今日も一生懸命生きている。今回の取材で、フォールディングバイクがほしいと思いついて検討中。

www.creapasion.com



Francisco Lerdo de Tejada

スペイン人 太極拳の先生 自転車歴20年「車も持っているけど、市内は自転車でも動くことにしている。駐車場所探しの必要もないし、環境にもいいからね。それにスポーツ的要素がある。だから1日に最低3回は自転車を使うよ。通勤は1人1人の課題だし、会社単位でも考えるべきだと思う。そうすればさらに自然環境保護がもっと進むんじゃないかな？」



Giulia Zanini

イタリア人 パール勤務 セビージャ歴2か月「セビリアに来たのは一年前で、通勤でセビージャを利用している。1日2回から4回くらいかな? 住んでいるアパートが狭く自転車を置けないからセビージャは便利だと思うけど、結構壊れているのが悩み。でも空気を汚さない自転車は利用すべきだね」



Juan Antonio Pérez Cáceres

自転車歴38年「38年の間に9回も自転車を盗まれたけど、80ユーロする錠を購入してからは盗まれなくなった。セビリアでは高い自転車は盗まれるので、だいたい200ユーロくらいの自転車に、合計150ユーロになるような錠を2つ投資すれば、盗まれる可能性は減るよ」